

租税教育実践レポート

私たちの生活と税金の関わり

登米市立東和中学校教諭 3学年 佐藤 文

実施年月日：令和4年1月31日 32名

1 実践計画・指導のねらい

「財政と国民の福祉」では、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解させる。また、国民の生活と政府の役割について多面的・多角的に考察し、表現できるようにすることを目的としている。授業を通して少子高齢化社会など現代の課題を踏まえ、自分の生活との関わりに気付かせ、担税者としての自覚を持てるように指導していきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
事前学習	・租税教室	○ <u>税金について知ろう。</u> ● 税金のしくみや使い道などの現状や国税査察官の仕事を描いたドラマを視聴し税についての現状や詳細な内容を学んだ。 ● 1億円分の紙幣レプリカを実際に持ってみる体験をし、重さなどを実感した。 □ 資料（県税務署より）DVD 1億円のケース
	・税の作文を書いてみよう。	○ <u>税について知っていることを話そう。</u> ● 消費税が引き上がった。教科書の無償配布。 ○ <u>どのようなことに使われているのだろう。</u> ● 学校生活を支えている。道路工事、年金、公務員の給与。 □ 副教材「わたしたちのくらしと税金」
1	私たちの生活と財政 ・財政の仕組み ・さまざまな税金 ・税金の公正性	○ <u>どのように税金は分類されるのか</u> ● 直接税・間接税・国税・地方税 ○ <u>所得税の課税方法について「公正」の観点から考えよう。</u> ①全員が同じ金額を納める。 ②全員が同じ税率で納める。 ③累進課税の方法 ● 所得や財産に対して税率をあげないと生活が苦しくなってしまう。 □ 教科書 副教材「わたしたちのくらしと税金」
2	財政の役割と課題 ・市場経済と政府 ・財政政策 ・公債の発行 ・これからの財政	○ <u>日本の財政について考えよう。</u> ● 国債の増加が課題になっている。 ○ <u>公債の発行のあり方について考えよう。</u> ● 社会保障などを支えるためには仕方がない。 ● 次の世代に借金を残すのはよくはない。 □ 教科書 資料集
3	社会保障の仕組み ・社会保障の役割とおこり ・日本の社会保障の四つの柱	○ <u>日本の社会保障制度はどのような仕組みなのか。</u> ● 社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生の分野で細やかに支えられている。 ● 持続可能な社会制度が必要。 □ 教科書 資料集
4	少子高齢化と財政	○ <u>今後の私たちの社会保障について考えよう。</u> ● 「高福祉高負担」の方が老後安心して生活が送れる。 ● 「低福祉低負担」自己責任で若者の負担を軽減する。 □ 教科書 資料集

【指導のポイント】≪事前学習≫

県税事務所の方々から分かりやすく税についての基礎知識を説明して頂いた。

【指導のポイント】≪事前学習≫

「税の作文」を夏休みの課題とした。租税教室の内容や頂いた資料や「私たちのくらしと税金」等をもとに自分たちの身の回りで役立っていることを踏まえて、税金に関する作文の題材を考えさせた。

【指導のポイント】≪1時間目≫

身近な税金である消費税を話題に取り上げた。また、所得税の累進課税について考えさせる。

【指導のポイント】≪2時間目≫

公債の発行を続けなければならない理由とデメリットをそれぞれ考えさせ、自分の生活に影響することに気付かせる。

【指導のポイント】≪3時間目≫

社会保障が生まれた背景を歴史の既習学習で振り返らせ、国民生活を安心して過ごすためには社会保障の四つの柱が大切なことを抑える。

【指導のポイント】≪4時間目≫

税の必要性や財政の課題について確認したうえで、社会保障のあり方について自分考えをまとめさせた。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

◎ 租税教室と「税の作文」を書くまでの期間が短かったので、講話の内容などが作文に反映されている生徒が多かった。

◎ 身近なところに税金が使われていることや具体的な使い道を知ることで、私たちの生活に税金が密着している大切なものであることに気づくことができていた。

◆ 消費税以外の税は、生徒にとってあまりなじみがなく理解が難しいところもあった。生徒の興味・関心を引き出す手立てとして新聞や広報なども活用しより良い資料を提示していきたい。